



日本音楽教育学会ニュースレター 第88号

目次

1 学会からのお知らせ

1. 第25期会長就任のご挨拶…………… 梅藤 敦子 2
2. 第25期(2022・2023年度)役員一覧・委員一覧…………… 3
3. 日本音楽教育学会第53回大会のご案内(第1報)…………… 津田 正之 4
4. 第17回音楽教育ゼミナールーリサーチ・メソッドを学ぶー
…………… 今川 恭子・杉江 淑子 5
5. 「第10回ワークショップin千住」開催のご報告…………… 市川 恵 6
6. 教科教育学コンソーシアム第2回シンポジウムが開催されました…………… 菅 裕 6
7. 編集委員会からのお知らせ…………… 今田 匡彦 7
8. 第52回大会実行委員会企画(能《敦盛》)の映像…………… 奥 忍 8

2 音楽教育の窓

1. 2022年度に開催される音楽教育に関わる学会・研究会等の情報…………… 9

3 会員の声

1. 「第10回ワークショップin千住」に参加して…………… 志民 一成 10
川邊友里絵 10
田村にしき 10
2. 弘前大学教育学部主催：ロバート・ウォーカー教授講演会に参加して
…………… 西田 治 11

4 会員の新聞・近刊等紹介…………… 12

5 報告

1. 2022年度日本音楽教育学会 第1回常任理事会…………… 13
2. 2022年度日本音楽教育学会 第1回理事会…………… 14

6 事務局より…………… 19

[編集後記]

1 学会からのお知らせ

1. 第25期会長就任のご挨拶

権藤 敦子 (広島大学)

度重なる災害に見舞われ、パンデミックに振り回され、さらに、人々の生活を破壊し、命も、安全も、国際秩序も平和も脅かすような行為が今まさに行われている中で、第25期の学会運営のバトンを受け取りました。現状に心を痛める個人としての思いを超え、日本音楽教育学会という、社会の負託を受けた学会に正面から対峙する機会を与えられたこと、真摯に受け止めています。「日本音楽教育学会倫理綱領」(前文)に示すように、「音楽教育に関する会員相互の研究協議をとおして、音楽教育研究の振興と音楽教育活動の発展に貢献することを目的とする」本学会において、「この目的の実現に向けた諸活動を支え」ることに全力を尽くすとともに、「人間の幸福と社会・文化の発展に寄与する」という究極的な目標を見据えながら、何ができるのか、何をすべきなのか、皆様とともに考え、取り組んでいければと思います。

言うまでもなく、「音楽」は、人類にとってなくてはならない実に多様で豊かな文化であり、「教育」は、未来に向けて、これからの世界を築くうえで最も基盤となる営みです。その両方にかかわる本学会の使命は、「人の心の中に平和のとりでを築く」(UNESCO)ことへと連なるものと言えるでしょう。

1998年の第29回広島大会で、パネリストのお一人喜納昌吉氏の資料は「すべての武器を楽器に」と大きな文字で書かれた1枚でした。「音楽教育を平和教育の視点から見直す」と題されたパネル・ディスカッションでは、ミュージシャンとしての実践から民族音楽学の視座へ、日常的な音楽の授業へと議論が展開されました。三線によって「花—すべての人の心に花を」が歌われ、グレゴリオ聖歌や、オルガンの演奏がホールに響き、伽倻琴併唱、和太鼓の演奏で参加者を迎えた大会での経験は、実行委員の一員として準備に携わった私にとって、学会を通じて音楽教育を考える原点となりました。また、2005年の中国地区例会では、マリー・シェーフアー作曲《Threnody》の演奏者であるカナダの中高生数名が、二日前に訪れた広島平和記念資料館を演奏会直前にホテルから自力で再訪。そのことによって自らの演奏を変化させていった、子どもたちの柔らかい心とひたむきな姿に衝撃を受けました。

会員お一人お一人、そして、日本音楽教育学会に関わってくださる方々にとって、本学会での出会いが有意義なものとなることを何よりも大切に考えていきたいと思います。学会の諸活動での交流を通して研究や実践を深める場をつくり、様々な企画や出版・公刊により皆様のサポートする役割を果たしていきたいと思います。前期に掲げられた「多様性を尊重した研究と実践およびその交流の推進」および「あらゆる世代に活躍していただく」方針を継承しつつ、皆様にとっての利便性や、学会の持続可能性を点検しながら、皆様の活動を支える盤石な学会組織を築けるよう努めて参ります。

倫理綱領作成に携わる中で、倫理、価値、最善は決して一つではなく、立場によって異なるという前提に立つとともに、学会には、その活動が社会の負託に応えるものになっているか問い、振り返り、すべての会員にとっての最善をめざす責任があると学びました。会員お一人お一人がその多様な立場での研究や実践を展開してくださること、皆様の自己実現を互いに支え合う活動基盤を整えていくことが、ひいては冒頭に掲げた「人間の幸福と社会・文化の発展に寄与する」ことをめざす学会の自己実現になると確信しております。役員・委員、事務局のスタッフの方々、そして、会員の皆様とともに53年目の歩みをしっかり踏み出したいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

2. 第25期（2022・2023年度）役員一覧・委員一覧

	氏 名 (所属等)	選出地区	担当
会 長	榎藤 敦子 (広島大学)	中国四国	
副会長	有本 真紀 (立教大学)	関東	
事務局長	齊藤 忠彦 (信州大学)	北陸 ◎	
常任理事 (9名)	今川 恭子 (聖心女子大学)	関東	企画, 編集
	今田 匡彦 (弘前大学)	東北 ◎	編集 (常任理事会選出)
	菅 道子 (和歌山大学)	近畿	事務局
	木村 充子 (桜美林大学)	関東	総務
	笹野 恵理子 (立命館大学)	近畿 ◎	広報
	嶋田 由美 (学習院大学)	関東	総務
	菅 裕 (宮崎大学)	九州 ◎	国際交流
	杉江 淑子 (滋賀大学)	近畿	企画
	寺田 貴雄 (北海道教育大学)	北海道 ◎	会計
理 事 (9名)	石井 ゆきこ (東京都港区立芝小学校)	関東	企画
	石上 則子	関東	企画
	伊藤 真 (広島大学)	中国四国	教科教育学コンソーシアム理事
	小畑 千尋 (文教大学)	関東 ◎	
	國府 華子 (愛知教育大学)	東海	会計
	新山王 政和 (愛知教育大学)	東海 ◎	
	津田 正之 (国立音楽大学)	関東	編集 (理事会選出)
	三村 真弓 (エリザベト音楽大学)	中国四国 ◎	
	山下 薫子 (東京藝術大学)	関東	企画
会計監事	伊藤 誠 (埼玉大学)	島崎 篤子 (文教大学)	

◎は地区担当理事

編集委員会 (13名)	曙地 希美	伊野 義博	今川 恭子	今田 匡彦	大澤 智恵
	岡部 芳広	桐原 礼	古山 典子	小山 英恵	坂井 康子
	津田 正之	野本 由紀夫	藤井 康之		
国際交流委員会 (5名)	伊原 小百合	○金 奎道	近藤 真子	◎菅 裕	水戸 博道
広報委員会 (5名)	上野 智子	◎笹野 恵理子	中嶋 俊夫	早川 倫子	村上 康子
選挙管理委員会 (5名)	○市川 恵	木下 和彦	三橋 さゆり	山内 雅子	◎山本 幸正
参事 (2名)	須田 珠生	松本 哲平			

◎は委員長 ○は副委員長 ※未記入の委員会は選出中

本学会から選出の委員

音楽文献目録委員会 (4名)	大田 美郁 三枝 まり 長野 麻子 橋本 久美子
教科教育学コンソーシアム 研究推進委員 (2名)	伊藤 真 小川 容子
教科教育学コンソーシアム 編集委員 (1名)	高橋 雅子

3. 日本音楽教育学会第 53 回大会のご案内 (第 1 報)

大会実行委員会委員長 津田 正之

第 53 回大会は、2022 年 11 月 5 日 (土)・6 日 (日) の 2 日間、国立音楽大学でオンラインにて開催されます。本大会では、口頭発表・ポスター発表、共同企画、常任理事会企画によるプロジェクト研究など充実したプログラムが予定されております。

コロナ禍が続く中、音楽の指導者の間では、音楽活動に応じた感染防止対策やオンライン授業への対応が現実的な課題となってきました。しかしその一方で、創造性の育成、多様な価値を認める柔軟な発想や他者との協働、音楽文化の理解を深めることなど、音楽科 (芸術科音楽) に期待される学びに向き合うことも重要な課題です。そのため大会実行委員会テーマを「対話する音楽教育—ダイバーシティ&インクルージョンに向けて」としました。ダイバーシティとは「多様性」、インクルージョンとは「受容」を意味します。本大会では、人と人、人と音楽との対話から、性別、年齢、障がい、国籍、ライフスタイル、職歴、価値観などに関わらず、それぞれの個を尊重し、認め合い、よさを共有し生かしていく、そのような音楽教育を目指していきたいと考えています。

実行委員一同、音楽教育の実践と研究の充実につながる大会になるよう、力を尽くしてまいります。全国から多くの皆様のご参加を、実行委員会一同、心からお待ちしております。

【日程表 (暫定)】 (オンライン開催)

11 月 5 日 (土)	9:00		12:30		13:45		14:15		16:15		16:30		17:30	
	研究発表 I (口頭発表)				昼休憩		開 会 式		実行委員会企画				総会	
			ポスター発表① 12:00-13:00											

11 月 6 日 (日)	9:00		12:00		13:00		14:30		14:45		17:00	
	研究発表 (口頭発表)				昼休憩		常任理事会企画 〈プロジェクト研究〉			共同企画		
			ポスター発表② 11:30-12:30									
			院生フォーラム									

【実行委員会企画】

大会実行委員会テーマを踏まえ、実行委員会企画では、シンポジウム「ジャズを通して考えるこれからの音楽科教育—即興、越境するアメリカ音楽をめぐる— (仮)」とし、国立音楽大学ジャズ専修教授の池田篤氏のカルテットによるジャズの演奏を交えながら、インプロ教育や音楽評論家、音楽教育者との対話を通して、これからの音楽科教育のあり方を展望する企画を検討しています (具体的な内容は 8 月発行予定のニューズレター 89 号でお伝えいたします)。

【院生フォーラム】

全国の大学院生による院生フォーラムを開催いたします。院生フォーラムは大学院生が企画・実施するものです。今年度は、国立音楽大学と東京学芸大学などの大学院生が中心となって運営いたします。詳細は 8 月発行予定のニューズレターや学会ホームページ等でお知らせします。どうぞ、ご参加下さい。

4. 第17回音楽教育ゼミナール ―リサーチ・メソッドを学ぶ―

企画担当理事 今川 恭子・杉江 淑子

第17回音楽教育ゼミナールは、音楽教育研究において重要な位置を占める観察研究と調査・統計研究の手法について取り上げ、Zoomを用いたオンラインで開催します。1日目はコミュニケーション分析のツールであるソフトウェア ELAN の活用について、2日目は統計学の入門から質問紙調査の設計・分析までを、それぞれ演習を交えて学びます。観察研究と調査・統計はクロスするところも大いにありますので、両日参加をお勧めしますが、1日のみの参加も受け付けます。新たな研究手法の習得やスキルアップを目指す皆さまのご参加をお待ちします。

日 程：ゼミナール1：2022 年 8 月 18 日（木）10：00～16：00（午前中講義、午後演習）

ゼミナール2：2022 年 8 月 28 日（日）10：00～16：00（演習と講義）

ゼミナール1：ELAN を用いたコミュニケーション分析

講師：山本 敦（早稲田大学人間総合研究センター招聘研究員）

趣旨：ELAN はマルチモーダルなコミュニケーション分析ツールとして近年多様な分野で用いられ、音楽的コミュニケーションへの適用可能性も期待される。一方可能性の広さゆえに使い手の発想と使い方が課題にもなる。ゼミナール1では ELAN の使い方を基礎から学び、動画を用いた演習を通して ELAN を用いた研究過程で大切なことは何か、自身の研究の中でいかに ELAN を活用できるか、参加者それぞれの課題意識に照らして考える場にしたい。

ゼミナール2：調査・統計―データを集める・データを使いこなす―

講師：太田 拓紀（滋賀大学教育学部教授）

趣旨：質問紙調査や統計は音楽教育研究においてもよく用いられる。統計分析の基本的な考え方を理解しておくことは、そうした研究を読み解くためにも、また多様な分析手法を使いこなすためにも必要である。ゼミナール2では、統計分析の基本であり、様々な分析の前提となる統計的検定の考え方を正確に理解した上で、調査計画の構築、質問紙の作成・データ分析の基礎までを演習を取り入れながら学ぶことを目指す。

参加費：会 員：2日間参加 1,000 円 1日参加 500 円

会 員（大学院生・学部生）：無料（*学生証コピーを添付の上、お申込みください）

非会員：2日間参加 1,500 円 1日参加 1,000 円

*参加費の納入方法については、参加確定のメールにて個別にお知らせします。

参加申込：申込みは6月1日より開始します。学会 HP にご案内する Google フォームにてお申込みください。

参加定員：各ゼミナール定員 30 名とします（先着順）。定員以内であることを確認した上で、Google フォームに入力いただいたメールアドレスに参加確定のご連絡をお送りします。

実行委員：今川恭子（ELAN 統括）、杉江淑子（調査・統計統括）、市川恵、伊原小百合、岡ひろみ、多賀秀紀

5. 「第10回ワークショップin千住」開催のご報告

市川 恵（東京藝術大学）

2022年3月26日（土）、東京藝術大学千住校地にて「第10回ワークショップin千住」を開催いたしました。今回のワークショップは感染症対策の観点から、人数を絞っての対面参加とオンデマンド配信を組み合わせての実施となりました。「宮城道雄作品の魅力を探り、《春の海》の演奏に挑戦しよう」と題し、午前中は、尺八演奏家・藤原道山先生による講義と実演から、宮城道雄の人間像や音楽観に迫りました。午後は、パーテーション等を活用して感染症対策を十分に講じた上で、尺八と箏のグループに分かれて、《春の海》の冒頭部分を合奏しました。参加者からは、講師と共に尺八を吹いたり、箏を弾いたりすることで、講師の息遣いや音を全身で感じることでできる大変貴重な機会となったとの感想をいただきました。



6. 教科教育学コンソーシアム第2回シンポジウムが開催されました

教科教育学コンソーシアム理事（会長特命） 菅 裕

2022年3月13日（日）午後、教科教育学コンソーシアム（以下「コンソーシアム」）第2回シンポジウムが開催されました。今回のシンポジウムでは、「教育課程の基準（学習指導要領）を教科教育学としていかに分析・評価するか」を主題とし、各教科の立場からの提案と指定討論が行われました。日本音楽教育学会からは笹野恵理子会員が提案者として指名され「制度化され・計画され・実践されたカリキュラム（意図されたカリキュラム）」に対して、教師や児童・生徒によって「経験されたカリキュラム（意図されなかったカリキュラム）」を布置し、『『当事者』の視点と『関係性』の文脈をカリキュラム研究に位置付ける』ことが提案されました。

さて、私、昨年3月のコンソーシアム発足以来、会長特命による日本音楽教育学会からの選出理事として、規約の作成等に取り組んでまいりましたが、4月に、担当を伊藤真会員に引き継ぎました。今年度はオンライン・ジャーナルの発行がスタートする予定です。各学会の個別の会員にも投稿資格が付与されることになっておりますので、伊藤会員からの今後の情報提供にぜひご注目ください。

7. 編集委員会からのお知らせ

編集委員会 今田 匡彦

〈音楽〉を〈教える〉ことを〈研究する〉ことは、今までのどの時代よりも、恐らくダイナミックな営みとなりました。そもそも〈音楽〉とは何ぞや、と問うときその普遍項は見つからない、そもそも〈教える〉とは何ぞや、と問うとき正解などどこにもない、学術〈研究〉の洗練を追求すれば、在来知との溝は深まるばかり、と、さまざまな点を線で結ぶことに心血を注ぎつつ、子どもたちは勝手に動き、音を創生して行きます。共時的に生起し、アッという間に消えていく音の世界を、透明に言葉で記述していくためには、さまざまな切り口が必要になる、という訳で、数値を含めた複雑な言葉の創生に出来るだけ寄り添い、手助けするためには以下のラインナップが必要となった次第です。

氏名	研究分野	メッセージ
疇地 希美	幼児音楽教育・保育者養成教育	ヒトと音楽の関わりをさらに豊かにするような発見や研究と出会えることを楽しみにしています。
伊野 義博	民俗音楽と音楽教育との接点	音や音楽と人間との関係を文字にすることの難しさに長年悩んできました。お役に立てれば幸いです。
今川 恭子	乳幼児の音楽的コミュニケーションと発達	人の生涯にわたる、さまざまな場面での音楽の学びを丁寧に見つめていきたいと思っています。
今田 匡彦	サウンドスケープ研究・ポスト構造主義哲学	公共性と福祉性を基盤とする子どもたちから生起するオンガクについてサウンドスケープ思想を基盤に思考・実践しています。
大澤 智恵	音楽知覚認知・演奏科学	音楽行動がどのように成り立っているのか、それを支え促進する教育はどのように展開できるのか、考えていきたいと思っています。
岡部 芳広	植民地期台湾の唱歌教育を中心とした学校教育	植民地期台湾の唱歌教育を中心とした学校教育について研究しております。とはいえ、コロナ以降台湾に行けず、往生しております。
桐原 礼	多文化音楽教育・スペインの音楽教育	音楽文化と子どもたちの多様性に目を向けること、また諸外国の情報から示唆を得ることも大事だと考えています。
古山 典子	教師の価値観研究・教師教育	音楽科は何をすべきなのかを基本的な起点として、今は鑑賞教育と教師教育についていろいろな方向から考えています。
小山 英恵	教育方法学	音楽教育研究の発展の一助を担うことができるようつとめていきたいと存じます。
坂井 康子	乳幼児の音声・自発的歌唱	ことばや環境から生まれる音楽、子どもの素地形成、そしてその発展としての音楽は…。
津田 正之	戦後の音楽教育史 題材構成論・教育行政	音楽教育の史実とその検討から得られる知見をもとに、音楽教育の今と将来について考えていきたいと思っています。
野本 由紀夫	鑑賞教育・音楽学(西洋音楽史) 合奏指揮法・著作権教育	領域横断的、学科横断的な音楽教育が、STEAM 教育に寄与できると考えています。
藤井 康之	音楽教育史	音楽教育の未来を展望していけるような本質的かつ刺激的な論文を楽しみにしています。

13名の編集委員会委員のうち、今回は8名の委員が新たに加わりました。これからの2年間「音楽教育学」というとてつもなく学際的で、故に、本当はこの上なく矮小化を嫌う学問の発展のために協力していくメンバーです。

8. 第52回大会実行委員会企画（能《敦盛》）の映像

奥 忍（関西外国語大学）

2021年10月に開催された京都大会。実行委員会企画を担当することになった当初は、ゲスト能楽師、河村晴久氏と中学校に出かけて、授業やワークショップの様子などを収録しようと計画していた。しかしコロナ禍の下、学校訪問は淡い夢と化し、徹頭徹尾オンラインで進めることとなった。

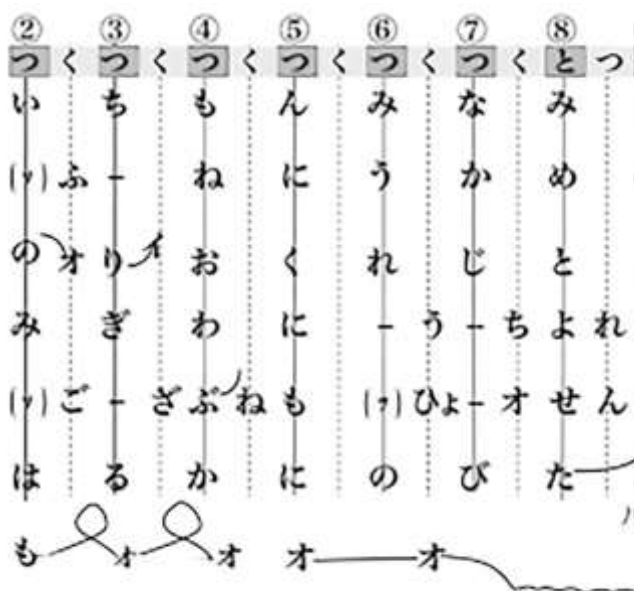
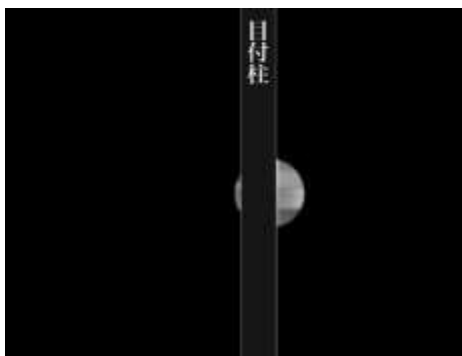
映像資料の公開は、授業資料や教育・研究用なら著作権法上の許容範囲内であっても、YouTubeではかなり厳しく適用されると聞いている。大学時代に能楽部で活動されていた国語の教師、相模浩史先生による熱意の溢れた授業資料は、法に触れないように慎重に構成した。

河村晴久氏と私との対談でも、視覚・音声情報をできるだけ多く提示したいと考えた。内容は、能の発祥から能舞台、演能、能楽師養成まで多岐に渡っている。映像の中で使われている資料は、河村家に伝わる貴重な資料の中から内容に応じて1枚1枚精選した。河村氏の全面的な協力なくてはなしえない作業だった。

図版については、学校での指導・学習に役立つよう、すでに作成していたデータを改良したり、新たに作成したりした。図版作成、映像のトリミングや配置の作業は、授業を行う教員と子どもたちの顔を思い浮かべながら進めることができた。楽しくも有意義な時間だった。

能の世界は学ぶほどに奥が深くなり、裾野が広がる。今回の企画はほんの入口を提示したに過ぎない。しかし、これらの映像が日本のあちこちの学校において能学習のきっかけとなれば、この企画に携わった実行委員一同、大いなる喜びである。現在準備中のYouTube公開をお待ちいただきたい。

なお映像作成については、収録段階から度重なる連絡と入念な作業をしていただいた芦澤博稔氏（studiokatz）のご協力があったことをここに記したい。



【写真上】鏡の間で面を付ける

【写真下】面を付けたシテから見た目付柱

【図】謡「一門皆々」のお稽古用楽譜

2 音楽教育の窓

1. 2022 年度に開催される音楽教育に関わる学会・研究会等の情報

6月4日(土)・5日(日) 日本音楽知覚認知学会 2022年度春季研究発表会
場所：立命館大学びわこ・くさつキャンパス&オンライン開催 URL： http://jsmpc.org/meetings/
6月18日(土)・19日(日) 日本音楽表現学会第20回(ソナール)大会
場所：浜松学院大学布橋キャンパス URL： http://www.music-expression.sakura.ne.jp/meeting/meeting-top.html
7月1日(金)・2日(土)・3日(日) 日本赤ちゃん学会第22回学術集会
場所：自治医科大学&オンライン開催 URL： https://akachan2022.jp
7月9日(土)・10日(日) 日本カリキュラム学会第33回大会
場所：オンライン開催 URL： http://jscs.b.la9.jp/meeting/meeting.html
7月17日(日)~22日(金) 35th ISME World Conference
場所：オンライン開催 URL： https://ismeworldconference.org/
8月20日(土)・21日(日) 日本学校音楽教育実践学会第27回全国大会
場所：オンライン開催 URL： https://www.27ongakujissen.com
8月20日(土)・21日(日) 日本コダーイ協会全国大会 2022 in 東京
場所：オンライン開催 URL： http://kodaly.jp/全国大会のお知らせ(第一次案内)/
8月24日(水)・25日(木)・26日(金) 日本教育学会第81回大会
場所：広島大学&オンライン開催 URL： https://jera-taikai.jp
8月26日(金) 全国大学音楽教育学会第37回全国大会(倉敷大会)
場所：オンライン開催 URL： https://www.nacome.com
9月16日(金)・17日(土)・18日(日) 日本教師教育学会第32回研究大会
場所：オンライン開催 URL： https://32nd.jsste.jp
9月17日(土)・18日(日) 日本音楽療法学会第22回学術大会
場所：広島国際会議場&オンライン開催(オンデマンド配信) URL： http://www.gakkai.co.jp/jmta22/index.html
9月24日(土)・25日(日) 教育史学会第66回大会
場所：オンライン開催 URL： http://kyouikushigakkai.jp/annual_meetings
10月1日(土)・2日(日) 日本教育方法学会第58回大会
場所：山口大学 URL： https://www.nasem.jp
10月8日(土)・9日(日) 日本教科教育学会第48回全国大会
場所：愛媛大学(オンライン開催等の実施形態は検討中) URL： https://jcrda.jp
11月1日(火)・2日(水) 全日本音楽教育研究会全国大会山口大会(総合大会)
場所：山口県KDDI 維新ホール他 URL： http://www.jsme.net/yamaguchi1.pdf
11月26日(土)・27日(日) 日本音楽学会第73回全国大会
場所：西南学院大学&オンライン開催 URL： https://am.musicology-japan.org/73/

3 会員の声

1. 「第10回ワークショップin千住」に参加して

志民 一成（国立教育政策研究所）

尺八の音を出すことに苦戦する参加者が多い中、藤原道山氏の素晴らしいご指導によって、最後には全員で《春の海》の冒頭部分を合奏することができました。以前、藤原道山氏にインタビューをさせていただいた際、尺八を始めた頃は音を出すことに苦労したが、それも尺八にのめり込んだ一因ではないか、と話されていたことを思い出しました。どうやったら音が出るのか、どうしたらよい音になるのかを追求されてこられたからこそ、磨き込まれた指導言なのだと実感しました。

自ら学習を調整しながら粘り強く学んでいくことを重視している「令和の日本型学校教育」において、藤原道山氏のお言葉の一つ一つ、そして参加者が短時間ですが粘り強く（そして頭が朦朧としながらも）尺八に取り組んだこと自体にも、たくさんのヒントが見いだせるような気がしております。ご指導いただきました藤原道山様と長谷川慎様、そして、このような貴重な企画をご準備くださいました関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

川邊 友里絵（府中市立南町小学校）

宮城道雄の中で想起された「春の海」の情景は、私たちが思い浮かべている瀬戸内の景色よりも、遥かに彩り豊かで、奥深く、そして繊細な景色だったのではないかと。ワークショップに参加し、宮城道雄が見ていた世界に思いを馳せるようになった。

最初に随筆から生涯を辿ることで、一つ一つの作品の背景が鮮明に浮かび上がり、身近に感じることもできた。また、実際に箏曲の演奏を聴き、宮城氏が描きたかった箏の音色の立体感や、彼の愛した作曲家であるラヴェルや、ストラヴィンスキーなどの作曲手法を想起することもできた。その後、実際に《春の海》の箏と尺八の演奏体験を行った。体験をすることを通して改めて感じた《春の海》の曲の表情の変化の美しさや箏と尺八の対話など、曲の多くの魅力を子供たちへ伝えていきたい。一日を通して、講師の藤原道山氏の丁寧な解説によって宮城道雄の人間的な魅力と、彼の音楽性に迫ることができ、とても素晴らしい体験であった。

田村 にしき（鎌倉女子大学）

前半は「随筆から追う宮城道雄」というテーマで、宮城道雄の人間像や音楽観、作品についてのレクチャーがありました。《水の変態》、《瀬音》、《比良》、《春の訪れ》の生演奏があり、藤原道山先生が随筆の中から、作曲された当時の背景や作品にこめられた想いを解説してくださったので、宮城道雄が見たであろう情景や、心情を想像し、音色の美しさを感じ取りながら聴くことができました。

後半は、尺八と箏のグループにわかれ、受講者が《春の海》の演奏を体験しました。私は箏のグループで指導を受けました。姿勢や身体の使い方を意識して演奏したり、唱歌をうたったりして表現を深めました。さらに、尺八のパートの唱歌をうたってから、尺八と合奏をすることで、箏の旋律との掛け合いや旋律の重なり方の理解を深めました。最後は藤原先生と長谷川先生の演奏や解釈を拝聴し、《春の海》の魅力に引き込まれました。演奏の体験を通して、音楽的な感じ方が変わり、さらに演奏の表現も変わっていく過程が明確に見え、新たな発見の連続でした。

2. 弘前大学教育学部主催：ロバート・ウォーカー教授講演会に参加して

西田 治（長崎大学）

Sound Projects. や *Musical Beliefs.* 等多数の著書で知られる現代を代表する音楽教育学者の一人、ロバート・ウォーカー氏の講演会が、2022年3月29日（火）18時～20時、Zoomによるオンラインにて、日本だけでなく世界各国から約150名が参加する中で実施された。内容は、講演タイトル“The Importance of Science, Sociology, and Pedagogy in the Cultivation of an Education in Music.”が示すように、音楽教育の今後を考えるための素材として、科学、社会学、教育学の3つの視点から話題提供が行われるものであった。

科学の視点では、胎児が生まれるまで、及び誕生後の発達のプロセスと音・音楽のかかわりが概観的に示され、社会学の視点では、古代エジプトから現代まで古今東西のあらゆる社会において、音楽がどのような役割を担ってきたか、あるいは音楽そのものがいかに変化してきたかについて概観的に知見が示された。教育学の視点では、千年以上前から行われている西洋文化における音楽教育であるキリスト教会の奉仕から話題がスタートし、現代の音楽教育までの変容が概観され、今日、学校で子どもたちに何を教えるべきかが重要な課題になっていることが指摘された。以上、3つの視点で提供された話題は非常に幅広く、ウォーカー氏の圧倒的な見識の広さを感じさせるものであった。

講演の終結部分では、ウォーカー氏の見解が示される代わりに音楽教育の課題として、6つの問いが提示された。ここでは筆者が特に印象に残る3つの問いのみを紹介する。

- ヨーロッパの歴史的伝統であるクラシック音楽は、現在、音楽教育のどこに位置づけられるのか。
- ポピュラー音楽に強く惹かれる子どもたちに、どのような音楽を教えるべきか。
- 日本、中国、韓国、あるいはベトナムといった国々の偉大で古い音楽の伝統については、どうすべきか。すべての子どもたちの音楽教育にこれらの音楽を取り入れるべきなのか。

これらの問いが示されたとき、「3つの視点の話題提供は、これらの問いを考えるための素材だったのだ」とすぐに理解された。ウォーカー氏は卓越した研究者であるだけでなく、優れた教師でもあり、私たちはこれからの音楽教育について、自らの頭で考えていくための視点と問いを与えられたといえる。講演全体を通して、ウォーカー氏の個人的な見解が示されることは、ほぼ無かった。加えて、これらの問いは、どこかに唯一絶対の解があるものではない。よって、科学、社会学、教育学の知見に学び、私たちが自らの社会、文化の状況を鑑み、その時々最適解を見つけていくしかない。これらの問いは、音楽教育の存在意義にかかわる根本的なものであるが故に簡単に答えは出せないが、根本的な課題について真に向き合う時期に来ていることを示唆するものであった。

このようなエキサイティングな経験を提供してくれた主催の弘前大学と同大学教授の今田匡彦氏に心より御礼申し上げる。濃密な講演内容だったにもかかわらず、始終和やかな雰囲気で行ったのは、師弟関係にあるウォーカー氏と今田氏だからこそであり、ウォーカー氏の意をくんだ今田氏の通訳があつてこそ、多くの参加者に内容が共有された講演会であつたと感じる。問いの提示によるオープンエンドな講演だっただけに、ウォーカー氏との対話の機会が再び訪れることを願ってやまない。

4 会員の新刊・近刊等紹介

★宮崎 明世 他編、伊藤 真・上野 智子・桂 直美・齊藤 忠彦・笹野 恵理子・長谷川 諒 他
著『中等音楽科教育,中等美術科教育,中等家庭科教育,中学技術分野教育,中等保健体育科教育,高校情
報科教育,中等総合的な学習/探究の時間』(新・教職課程演習 第21巻) 協同出版 2021/10/15
A5判・241頁 ISBN:978-4-319-00362-4 [本体2,200円+税]

中等音楽科,美術科,家庭科,技術科,保健体育科,情報科,総合的な学習/探究の時間について,
学習指導に関わるポイントをQ&A方式で解説している。演習用テキストとして最適の書。

★吉田 直子・佐藤 真由子 著『おんがく理論—初心者のための基礎から学ぶ—』ファウエム・ミ
ュージック・コーポレーション 2022/1/11 B5判・127頁 ISBN:978-4-9911721-1-3 [本体1,300
円+税]

音楽理論を実際の音楽体験と結びつけて学べる初心者のためのテキスト。会話形式で楽しみながら
読み進め,「例題」「練習問題」「問題のねらいと解説」を通して理解を深めることができる。

★森 薫 著『子どもたちは音楽科授業にいかに参加しているか—知識と探究のマイクロ・エスノグ
ラフィー—』ミネルヴァ書房 2022/2/2 A5判・360頁 ISBN:978-4623092505 [本体8,000円+税]

子どもたちが知識を使用,修正,更新,生成していく過程について,理論的・実践的考察の双方を
展開し,彼らの学習の現実に迫るとともに,音楽教育学分野にあたらしい知識観を提示する。

★坂井 康子著『子どものことばとうたの結びつきに関する研究—自発的歌唱の音声分析に基づく考
察—』風間書房 2022/2/28 A5判・183頁 ISBN:978-4-7599-2424-4 [税込7,150円]

幼児等の自発的な歌唱と発話音声の音声分析して比較し,うたとことばの違いや結びつきを明らか
にした。本書では,ことばに基づいたうたの重要性を基礎研究と実践研究により示している。

★伊野 義博・黒田 清子・権藤 敦子 編著『ブータンの遊び歌ツァンモの研究—21.5世紀音楽教
育への序章—』日本・ブータン民俗音楽研究会 2022/3/1 A4判・542頁 ISBN:978-4-9912450-
0-8 問合せ:ino@ed.niigata-u.ac.jp

「ツァンモ」というブータンの遊び歌に関する論文集である。第1章「ツァンモとは何か」,第2章
「文化と音楽教育」,第3章「モンゴル族・チベット族の掛け合い歌」で構成されている。ツァンモと
いう歌の有り様を通して,音楽教育における「歌うこと」の意味も問う。

ニュースレターでは「会員の新刊・近刊等紹介」「会員の声」への皆様のご投稿をお待ちしており
ます。書籍,CD,DVDなどのリリースの情報がありましたら,基本的な書籍情報,音源情報に加え
て「である調」90字程度の紹介文をお送りください。

投稿先アドレス☞(半角)onkyoiku@remus.dti.ne.jp

5 報告

1. 2022 年度 日本音楽教育学会 第 1 回常任理事会

日 時：2022 年 4 月 23 日（土）13：00～14：30

場 所：オンライン開催（Zoom）

出 席：権藤、有本、齊藤、今川、今田、菅道子（記録）、木村、笹野、嶋田、杉江、寺田、菅裕
理事会と重複する事項は割愛して報告・審議された。

開会に先立ち、第 25 期のスタートを切るにあたり、常任理事、理事、事務局、会員の皆様と共に学会運営をすすめていきたいと権藤会長からの挨拶があった。

【審議事項】

1. 2021 年度決算報告及び監査報告（杉江・寺田）

杉江会計担当理事より 2021 年度決算報告、寺田会計監事より 4 月 16 日の会計監査会において適正な会計処理が確認されたとの報告があり、承認された。また、ここ数年の適正かつ倏約した予算執行により赤字を解消し、加えてコロナ禍での交通費の減少等、今年度は繰越金が多い。学会として発信すること、若手研究者を支援すること、業務軽減に繋がること等、今後必要な予算については意見をあげてもらい、適宜判断していくことを確認した。

なお、これまで大会プログラムに掲載されていた会計諸表について、今後は総会資料として、マイページ等での掲載を検討することとなった。

2. 第 53 回大会について（報告も含む）

3 月 15 日に今川前会長、有本副会長が開催大学の国立音楽大学を表敬訪問し、武田忠善学長、津田実行委員長、事務方責任者の方々にご挨拶を行ったこと、大学からは全面的な協力のお申し出をいただいたこと、会場視察を行ったことが報告された。

(1) 開催方法（権藤）

状況を踏まえ、5 月 11 日までに関係者とともに協議して決定する旨、報告がされた。

(2) タイムスケジュールについて（今川・杉江）

開催形式によってはまだ流動的だが、大枠について例年通りでの提案が示された。

(3) プロジェクト研究について（今川・杉江）

Music in Life History and Music Education というテーマのもと、学校教育から少し視点を広げ、人の生活経験の中での音楽という観点から、音楽教育を捉え、考察していくような内容にすることが提案された。その際、審議事項 3. とも関連させ、新たな調査研究への展開の可能性も視野にいれることが確認された。

3. 調査研究・アンケート資料の扱いについて（杉江）

2. (3) プロジェクト研究にも関係することとして、1987 年に本学会で実施された「小・中学生の生活と音楽に関する調査」の回収調査用紙の保存と有効活用の必要性について提案がなされた。上記調

査用紙（原本 1987）と報告書『音楽科教育課程研究の現状と課題』（日本音楽教育学会，1988）については，第一段階として PDF 化することが承認された。加えて，学会が上記以外で行った調査研究，報告書等のデータについてもアーカイブ化したり，英訳したりして学会の知的財産として保存・活用していくことの検討が必要であり，会長諮問のワーキンググループ等を組織して継続審議していくという方向性が確認された。

4. 「日本音楽教育学会細則」及び「学会賞審査委員会規定」の一部改訂に関して（木村・嶋田）

「日本音楽教育学会細則」「日本音楽教育学会会長・理事選挙実施要領」「学会賞審査委員会規定」の一部改訂について検討し，継続審議とした。

5. 選挙電子化について（榎藤）

マイページの設置やオンライン上での作業が一般的になってきた現況に鑑みるとともに事務局，選挙管理委員会の業務軽減も図るため選挙を電子化することが提案された。予算的にも可能であり，今年度の総会で審議できるよう準備を進めていく方向性が示され，了承された。

6. その他

地区理事の選出方法について，齊藤北陸地区担当理事より，一地区での理事の選出は役員が固定化しやすい等，若手を含め多くの人が参画しにくい状況があるため，これ等の改善について何等か討議が必要ではないかとの問題提起が出された。これについては役員選出方法に限らず，継続して意見交換していくこととなった。

〈次回会議の予定〉第2回常任理事会 7月9日（土）13：30～（時間は予定，開催方法未定）

2. 2022 年度 日本音楽教育学会 第1回理事会

日 時：2022 年 4 月 23 日（土）15：00～17：30

場 所：オンライン開催（Zoom）

出席者：榎藤，有本，齊藤，今川，今田，菅道子，木村，笹野，嶋田，菅裕，杉江，寺田，石井，石上（記録），伊藤，小畑，國府，新山王，津田，山下

前期からの「多様性を尊重した研究と実践及びその交流の推進」「あらゆる世代に活躍していただく」方針を引き継ぐとともに，事務局長補佐の新設，企画担当理事の増員等により，無理なく円滑に学会運営をすすめていきたいとの会長挨拶があった。続いて，各理事より挨拶と自己紹介が行われた。

【会務報告】〈2022 年 2 月 20 日以降〉（齊藤）

2 月 20 日 2021 年度第4回常任理事会（Web 会議）

3 月 18 日 ニュースレター第 87 号 発行

3 月 31 日 『音楽教育学』第 51 巻第 2 号発行

3 月 31 日 2021 年度会計決算

4 月 16 日 2021 年度会計監査会（Web 会議）

【審議事項】

1. 新入会員及び退会者について（齊藤）

2月20日以降の正会員新入会24名、自然退会者の再入会希望1名、正会員の申し出退会25名について、審議の結果、承認した。また、2022年5月に2年未納だった場合、2021年度をもって自然退会者となる61名について、可能な範囲で声掛けをすることとした。

（2022年4月22日現在 正会員1,589名 学生会員3名 名誉会員2名 特別会員2名）

◆正会員 新入会員・再入会員（2022年2月20日常任理事会以降）

個人情報保護のため削除しました

正会員新入会24名、正会員再入会1名

2. 2021年度決算報告及び監査報告（杉江・寺田）

杉江会計担当理事より2021年度決算報告、寺田会計監事より4月16日の会計監査会において適正な会計処理が確認されたとの報告があり、承認された。

3. 第53回大会について（報告も含む）

今川前会長より、3月15日の国立音楽大学への表敬訪問の報告がされた。武田忠善学長より学会大会開催にあたって大きな理解をいただいたこと、今後の状況に応じて柔軟な対応をしつつ、素晴らしい環境で音楽と教育を結ぶ研究大会ができるとよいと考えている、との報告があった。

(1) 開催方法（榎藤）

5月16日（月）に申込サイトオープン予定であるため、5月11日までに開催方法を決定したい旨の説明があり、承認された。

(2) 大会について、大会実行委員会企画、院生フォーラムなど（津田）

3月23日に実施された第2回実行委員会での報告を中心に進捗状況の説明があり、ハイブリッドでの開催は難しいため対面かオンラインかどちらかで行うことになった、との報告があった。

また、後援申請について検討中であることが報告された。

大会実行委員会企画については、大会1日目に2時間程度のシンポジウムを計画、仮テーマを「ジャズを通して考えるこれからの音楽科教育—即興、越境するアメリカ音楽をめぐる—（仮）」として、全体の構成やゲストへの依頼等、準備を進めている。

院生フォーラムについては、内規では正会員でないとフォーラムの企画参加発表ができないため、どのように運営して行くべきか意見交換が行われた。その結果、教職員大学院所属の院生が増え、院生フォーラムでの発表前に正会員として入会を義務付けることが難しくなっている状況も踏まえ、内規の改正も視野に入れて継続審議していくことが承認された。

(3) タイムスケジュールについて（今川・杉江）

現段階での暫定的なスケジュールが示され、承認された。開催方法、研究発表数や共同企画数に応じて調整を図る。

(4) プロジェクト研究について（今川・杉江）

人の生活経験の中での音楽という観点から、音楽教育をとらえ考察していくような内容で検討中であり、Music in Life History and Music Education（生活史の中の音楽と音楽教育）をテーマとして進めていく予定であることが提案され、承認された。

(5) 大会参加費について（齊藤・津田）

臨時会員の参加費について、5月11日の開催方法の決定を受けて確定することが確認された。

4. 2022年度第17回音楽教育ゼミナールについて（今川・杉江）

8月中の2日間、オンライン開催で、リサーチ・メソッドを学ぶゼミナールを計画、8月18日（木）は「ELANを用いたコミュニケーション分析」（山本敦先生）、8月28日（日）は「調査・統計—データを集める・データを使いこなす—」（太田拓紀先生）とすることが提案され、承認された。参加費について調整中のため、企画担当理事に一任することが承認された。

5. 「日本音楽教育学会細則」及び「学会賞審査委員会規定」の一部改訂に関して（嶋田・木村）

前年度第4回常任理事会で発議された「日本音楽教育学会細則」第五章第16条、「日本音楽教育学会会長・理事選挙実施要領」のⅠ会長選挙、Ⅱ理事選挙の文言、及び「学会賞審査委員会規定」の一部改訂について検討を行い、継続審議とした。

6. 育志賞の推薦について（榎藤）

推薦の申し出がなかったため、本学会から推薦は行わないこととした。

7. 選挙電子化について（榎藤）

次年度から運用を開始できるよう、今後詳細について具体化していく方向で承認された。

8. 調査研究・アンケート資料の扱いについて（杉江）

1987年に本学会で実施された「小・中学生の生活と音楽に関する調査」の回収調査用紙の保存と有効活用の必要性について提案がなされ、調査用紙と報告書『音楽科教育課程研究の現状と課題』（日本音楽教育学会、1988）についてPDF化して保存することが承認された。上記以外の学会が行った調査研究、報告書等のデータについても、アーカイブ化して学会として保存・活用していく方向で継続審議することが承認された。

9. 2022 年度事業計画及び補正予算について（齊藤・寺田）

齊藤事務局長より2022年度事業計画案について説明があり、承認された。また、寺田会計担当理事より、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえつつ、質の高い事業を行うことができるよう、当初予算に対して修正を加えた補正予算案について説明があり、学会の持続可能性と事業の充実を図る方向で引き続き調整を行うことも含めて、承認された。

10. 2023 年度事業計画及び予算について（齊藤・寺田）

齊藤事務局長より2023年度事業計画案について、寺田会計担当理事より2023年度予算案について説明があり、承認された。

11. 2022 年度日本音楽教育学会参事の委嘱について（榎藤）

須田珠生会員、松本哲平会員への2022年度参事委嘱が承認された。

12. その他

地区理事の選出方法について、齊藤北陸地区担当理事より、若手を含め、より多くの会員が参画するためには、今後の学会のあり方を考えた理事選挙の検討が必要ではないか、との問題提起が行われ、意見交換を行った。将来にわたり発展的で安定的な学会運営の基盤をつくることを目的とした理事の被選挙権に関わる細則改正が2020年に行われたところであり、本務も含め多忙を極める中でも、学会の役員・委員を務めることが会員にとって有意義な活動となるよう、負担軽減も含めた検討の必要性があることも指摘され、継続的に審議していくことを確認した。

【報告事項】

1. 各委員会等報告

(1) 編集委員会（今田）

2022年2月20日に2021年度第4回編集委員会がオンラインにて開催された。現時点での投稿状況は再査読も含め『音楽教育学』14本（研究論文9本、研究報告4本、研究動向1本）、『音楽教育実践ジャーナル』11本で、5月22日に開催予定の2022年度第1回編集委員会（Teamsによるオンライン）にて審議される。また第1回編集委員会では、正副委員長も決定の予定である。

(2) 国際交流委員会（菅 裕）

3月23日に正副委員長の選出、今期の事業計画を議題として委員会を開催した。実践に関する国際ゼミナールの開催、Webサイトの更新、英訳等について検討していることが報告された。

(3) 広報委員会 (笹野)

5月18日にニュースレター第88号をオンライン発行予定で進行中である。第89号(北海道・東北地区)、第91号(関東・北陸地区)の「会員の声」執筆者について推薦が依頼された。

(4) 教科教育学コンソーシアム (菅裕)

3月13日に行われた第2回シンポジウムでは、本学会の笹野恵理子会員に登壇を依頼、素晴らしい発表であったこと、ジャーナル第1号は依頼原稿によりオンラインで発行される予定であること、第2号以降は加盟学会の会員の投稿が行われることが報告された。

(5) 選挙管理委員会 (山本→齊藤)

3月末に選挙管理委員会を開催し、委員長及び副委員長を選出したことが報告された。

(6) 音楽文献目録委員会 (長野→齊藤)

4月10日に音楽文献目録委員会を開催し(メール審議)、RILM国際版への文献登録予定数(4月中に登録)が398件である等の報告及び予算案等の審議があったことが報告された。

※(5)(6)については、後日、常任理事・理事メールで報告された。

2. 地区例会報告 (寺田・今田・齊藤・小畑・新山王・笹野・権藤・菅裕)

北海道地区	1月23日13:00~17:00	小中学校授業実践に関するシンポジウム。研究発表。
東北地区	2月27日13:00~17:00	5件の発表, 20名の参加があった。
北陸地区	3月13日13:00~17:00	5件の発表, 23名の参加があった。
関東地区	3月14日~3月21日	クラウドストレージにより4名の院生発表, 35名の参加申込。3月19日13:00~15:30 コロンエリカ氏を迎え、ベネズエラの「エル・システム」教育について講演やワークショップ等を実施(聖心女子大学)37名参加。
東海地区	3月6日13:00~16:00	修論発表3名, 正会員の発表3名。教職大学院の院生の参加に配慮した学会のあり方が課題である, との報告があった。
近畿地区	3月5日13:00~16:45	卒論・修論等8件の発表。49名の参加があった。
中四国地区	3月20日12:50~16:30	高知大学による開催で, 修論5件, 研究発表8件, 中四国のすべての県と, 他地区からの参加を含め, 35名の参加があった。
九州地区	3月12日13:30~17:00	30名参加, 院生9名の発表があった。

地区例会は、現状を踏まえ、内容に関わらず、すべてオンラインで実施された。

(次回会議の予定) 第2回理事会 11月4日(金) 時間、開催方法は未定

6 事務局より

事務局長 齊藤 忠彦

1. 第53回大会について

第53回大会（国立音楽大学）は、11月5日（土）、6日（日）にオンラインで開催します。詳細は学会HPおよび申し込み専用webサイトをご覧ください。

研究発表・共同企画の申込および要旨登録〆切：2022年6月15日（水）15時

大会参加申込及び参加費支払〆切：2022年10月13日（木）15時

※大会参加費は4,000円（正会員）

※事前申込のみとなります。当日参加は受け付けませんのでご注意ください。

2. 年度会費納入のお願い

年会費（7,000円）の期限内（5/31まで）納入にご協力ください。会費未納の場合、大会での発表、送付物の受け取り、論文投稿などに支障が発生します。2年間会費を滞納すると自然退会になります。会費納入後、約2週間で事務局より年会費振込の確認メールが自動送信されます。メールが届かない場合は事務局までご連絡ください。

3. 会員情報（所属先・住所など）の変更について

学会からの送付物が「宛先不明」にて戻ってきてしまうことが少なからず生じています。所属先・住所等に変更があった場合は、速やかに修正登録をお願いします。特に、新年度に所属先・住所が変更になった方はご注意ください。会員情報の変更は事務局では受け付けておりません。学会HP「会員個人専用ページ（「マイページ」）」からご自身で変更していただきますようお願いいたします。メールアドレスが未登録の方は「マイページ」に入ることができませんので、事務局まで至急メールアドレスをご連絡ください。

4. 事務局について

2022年度は、宇田川さん、亀山さん、徳山さん、若尾さんの4名が事務局業務を担当します。新型コロナウイルスの影響に鑑み、ご用件はEメールでのみ承っております。お返事までに数日かかることがあります。ご了承ください。

.....【編集後記】.....

平和を考えさせられるニュースが日々飛び込んできます。その中、本誌で権藤新会長が、「人間の幸福と社会・文化の発展に寄与する」という本学会の究極的な目標を言葉にしてくださいました。音楽の力を借りて何ができるのか、本誌も考える場になるよう笹野委員長の下、上野・中嶋・早川・村上の5名の広報委員で精一杯取り組んでまいります。2年間よろしくお願いいたします。（村上康子）

.....

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206 Tel. & Fax. : 042-381-3562

E-mail : (半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

郵便振替口座：00110-6-79672, 日本音楽教育学会

他金融機関からの振込：ゆうちょ銀行、〇一九（ゼロイチキュウ）店、当座0079672, 日本音楽教育学会

事務局員：宇田川・亀山・徳山・若尾

※新型コロナウイルスの影響に鑑み、事務局開局の状況が不規則です。ご用件はEメールにてお願いいたします。